愛知大学 2022 年度総括及び 2023 年度各学部 FD 活動

学部等名	FD 活動
法学部	[2022 年度 FD 活動総括」 ・2022 年 7 月 7 日の教授会で、成績評価に関する話し合いが行われた。法学部は他学部と比較して GPA の平均値が低いが、到達目標に達していない学生に単位を与えるわけにはいかないため、GPA を無理に引き上げる必要はないことが改めて確認された。 ・2022 年 9 月 15 日の教授会終了後、「成績評価」というテーマで教学に関する懇話会を実施した。今年はコロナ３年目であるため教員側も教え方に慣れ、１年生への学習指導を十分行えたが、その反面今の２年生や３年生への指導が十分できなかったことへの反省が語られ、彼らに対するフォローを行う必要があることが確認された。 [2023 年度 FD 活動] ・今年度もこれまでと同様、教授会終了後に「教学に関する懇話会」を複数回実施する予定である
経済学部	[2022 年度 FD 活動総括] ・経済学部内 FD 学習会・外部 FD 研修。 2022 年度は 2 回の FD 学習会を開催した。 1 度目は 2022 年 9 月 15 日に「経済学部における PROG テスト試行（結果報告)」をテーマに開催し参加者は 27 名であった。2 度目は 2023 年 3 月 10 日に「遠隔授業と対面授業の活用」をテーマに開催され参加者は 28 名であった。いずれも現在学部が直面している課題であり、情報共有と意見交換がなされることで知見を深めることができた。また、外部の研修会等へ積極的な参加を促し、39 件の参加報告がなされた。 [2023 年度 FD 活動] 経済学部内 FD 学習会を開催する。テーマはカリキュラム改変に伴い自由に議論・意見交換することが望ましいと思われるテーマ（フィールドスタディの国内実施など）から選択する。
経営学部	[2022 年度 FD 活動総括] ・新入生相互の交流や経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導を中心とした新入生歓迎会（4 月 2 日開催）は、学生スタッフ（学生 FD 委員）の協力もあり、大変盛況であった。学生の視点からより満足度を高めていくことの必要性ときめ細かな履修指導を継続していくことが確認された。 ・第 1 回教授会（4 月 7 日開催）において、2021 年度学修成果アンケートの集計結果をもとに、両学科の現況を確認し、教学改善に向けての意見交換を行った。 ・2020 年度に教授会において確認された「学生の学び」において「入門ゼミ」が重要となるとの認識に基づいて 2020 年度と 2021 年度に実行した「入門ゼミ」への学部予算増額をさらに発展させて、2022 年度においては経営学部 1 年次生のみを参加対象とする文化的イベントを開催した。 [2023 年度 FD 活動] (1)新入生歓迎会の実施 ・経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導 ・学生の視点からの満足度を高めるための企画を学生 FD 委員の参加により実施[2021 (2)よりよい教育の実現を目指した議論 ・学修成果アンケート集計結果をもとに、現況を確認、教育上の課題を検討 ・「学生の学び」において重要となる事項の検討、予算上の措置の再考

学部等名	FD 活動
現代中国学部	[2022 年度 FD 活動総括] ・卒業生及び新入生アンケート 2022 年度の学修成果アンケートの回答率は、68.1%で、平均（48.4%）と比較して、かなり高かった。また、学部独自の卒業生アンケート（語学系資格取得状況）も実施し、これを補完することができた。加えて、学部独自の新入生アンケートを実施し、新入生の全体的傾向の早期把握に努めた。 ・教学活動に関するワーキンググループの設置 「初年次教育グループ」「卒業年次グループ」「語学教育グループ」「新しい教育方法グループ」「キャリア教育グループ」の 5 つの FD グループに分かれて、教学活動に関する意見交換の場を持った。各グループの活動報告書は Teams で共有されており、随時他グループの活動内容が把握できるようにされている。 ・現代中国学会との連携 現代中国学会主催講演会を以下の 3 回開催した。 ① 日時：2022 年 5 月 27 日(金) 演題：「中国をどう理解し、どう向き合うか」 講師：横井　裕　氏（前在中国日本国特命全権大使） ② 日時：2022 年 10 月 11 日(火) 演題：「日中経済交流の 50 年とこれからの課題～現場の視点から～」 講師：服部　健治　氏（中央大学ビジネススクール名誉フェロー、一般社団法人日中協会副会長） ③ 日時：2022 年 12 月 6 日(火) 演題：「日本語圏で創作する「新時代」の台湾人として」 講師：温　又柔　氏（小説家） 講演の内容は授業にも活用されており、多数の学生が参加した。講演後の質疑応答、活発な意見交換の様子から、学生たちに多くの学びをもたらしたことが伺い知れた。 ・現地に渡航しない現地主義教育に関する研究 22 年度においては、現地渡航は一部地域のみの実現にとどまり、「オンラインを活用したより効果的な現地主義教育の方法」について、各委員会で探究した。また 22 年度から COIL 型（国際協働オンライン学習プログラム）授業が導入されており、これについての意見交換の場も FD 活動の一環として設けられた。 [2023 年度 FD 活動] ・卒業生及び新入生のアンケート 自己点検・内部質保証委員会が実施する学修成果アンケートの回答率を高め、データの信頼性・妥当性を向上させる。また、本学部の特長的な学修成果を把握するために、学部独自のアンケート（語学系資格取得状況）を継続して実施する。これらのアンケート結果を教授会で共有し、学修成果の把握や意見交換の材料とする。 ・教学活動に関するワーキンググループの開催 22 年度に設置された教学活動に関するワーキンググループを 23 年度も引き続き開催する。教員数の減少にともない、本年度はグループ数を 4 つに減らし、Teams を使って活動内容を共有できるようにする。 ・現代中国学会との連携 現代中国学会講演会・シンポジウムなどと密接な連携をとり、現代中国に関わる広い知識の獲得・共有をとおして授業改善につなげる。 ・オンラインを活用した授業の研究 コロナ禍以降、多様な形態の教学方法がとりくまれるようになっている。22 年度から導入された COIL 型（国際協働オンライン学習プログラム）授業をはじめとするオンラインを活用したより効果的な授業の実践について意見交換を行う。

学部等名	FD 活動
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	[2022 年度 FD 活動総括] ＜英語学科＞ ・現在の入試状況や高校生の動向について学科構成員間で議論した。また入学者の変化に対応するため入試選抜方法を再検討して変更を決定した。 ・入学時に行うアンケート調査の結果と CASEC の点数を考慮してクラス編成を行い、授業の運営方法について意見交換を行った。 ・一年生入門ゼミでは、キャリア支援、国際交流、図書館利用方法に関するガイダンスを各部署と調整して、ゼミ合同あるいは統一した内容で実施した。 ・一年次に加えて、二年次秋学期末にも TOEIC を無料で受験できる体制を整え、学生が自分の英語技能の上達を客観的にとらえられるようにするとともに、学科全体の英語教育の成果を測る参考資料とした。またそのスコアを 3 年次習熟度別クラス分けの資料として活用した。 ・英会話・英作文の授業にコーディネーターを引き続き配置し、積上げ式の学習を可能にした。 ・大学の学生相談室カウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てた。 ・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をした。 ＜国際教養学科＞ ・注意を要する学生がいた場合、その都度、学科会議において情報共有をし、学生の指導のあり方について意見交換を行った。 ・学科会議での学科教育に関する意見交換・情報共有を継続し、連携して逐次課題・問題に迅速に対処できる体制を維持するよう努めた。 ・学習状況アンケートの結果をふまえ、今後の学科の在り方等についての意見交換を行った。 ・導入教育のさらなる拡充について、「入門ゼミ」の将来的な在り方を含め、担当者間で意見交換を行った。特に、2021 年度より「入門ゼミ」は統一シラバスで行っているため、内容、活動方法について担当者間で密に情報交換を行った。さらに、入学前教育として実施したブックレビューを継続し、よりよい活用の仕方について検討を重ねていった。 ・入学前教育の一環として作成予定の、各教科の紹介ビデオの作成について意見交換を行った。 ・2025 年のカリキュラム改編にむけて、学科のカリキュラムの見直しを行った。特に学科の英語教育の積み重ねについて、担当者間での検討を進めた。 [2023 年度 FD 活動] ＜英語学科＞ ・入学時に行うアンケート調査と CASEC の点数を考慮して 1 年生の習熟度別クラス編成を行い、授業の運営方法について意見交換をする。 ・特に 1 年生の入門ゼミでは、細やかに学生の状況を把握し、学生生活に必要なキャリア支援、国際交流、図書館利用方法などのガイダンスを積極的に取り入れる。また、できる限り合同、あるいは統一した内容のガイダンスを企画・実施できるようにする。 ・入試課と教務課からのデータを利用して、現在の入試状況や高校生の動向を把握し、必要な対応方法を検討し実施する。 ・学生相談室委員やカウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てる。 ・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をする。 ・一年次に加えて、二年次秋学期末にも TOEIC の受験を義務化し、学生が自分の英語技能の上達を客観的にとらえられるようにするとともに、学科全体の英語の教育成果を測る参考資料とする。またそのスコアを 3 年次習熟度別クラス分けの資料として活用する。 ・英会話・英作文の授業にコーディネーターを引き続き配置し、非常勤講師との連絡を密

	にし、積上げ式の学習を可能する。 ・2025 年のカリキュラム改編にむけて、学科のカリキュラムの見直しを行う。特に積み上げ式の教育体制について、担当者間での検討を進める。 ・入学前教育として 3 月末に実施していた英会話レッスンを廃止し、生徒にとって適切な時期に実施できる有効な方法を検討する。また、入学前教育の成果を生徒の基礎学力の参考資料として活用する。 ・留学ガイダンス、後援会、オープンキャンパス、K-con などの学生が日本語や英語でプレゼンテーションをする機会を増やし、国際交流や学習の動機付けを行う。 ＜国際教養学科＞ ・学科会議での学科教育に関する意見交換・情報共有を継続し、連携して逐次課題・問題に迅速に対処できる体制を維持する。 ・2025 年のカリキュラム改編にむけて、学科のカリキュラムの見直しを行う。特に学科の英語教育の積み重ねについて、担当者間での検討を進める。 ・導入教育のさらなる拡充について、「入門ゼミ」の将来的な在り方を含め、担当者間で意見交換を行う。また、入学前教育として実施したブックレビューを継続し、よりよい活用の仕方について検討を重ねていく。 ・昨年度同様に、在学生対象の学習状況アンケートを実施し、教育の成果や課題について問題共有を図っていく。

学部等名	FD 活動
文学部	[2022 年度 FD 活動総括] 1. ラジオ番組「こちら愛大　～アイダイ・ど・文学部の時間～」　(FM 豊橋)の収録・放送 文学部の教員が自身の研究や教育に関する内容が収録・放送された。今年度は新任教員を含め、教員主体の番組を組み、より教員、あるいは教員が行う講義そのものにフォーカスする内容とした。また人文社会学研究所シンポジウムとの連動企画として、「コロナ禍とどのように向きあうか：人文社会学の知見をもとに考える」をテーマとし、登壇した文学部の教員 4 名による対談が収録・放送された。放送は 2022 年 11 月から 2023 年 2 月までの全 17 回にわたって行われ、その後、愛知大学公式 HP および文学部公式 HP を通して公開された。これを通し教員が自身の教育のあり方を再考するとともに自己研修を行った。 2. 各学科・コースにおける取り組み ＜人文社会学科＞ ひきつづき、学科としての基礎演習を行い、主に 1 年生向けの導入教育の充実を図った。社会学コースでは、昨年度同様、ムードル（Moodle）上のプラットフォームにおいて、社会学教育に必要な情報を学生・教員間で共有した。また注意を要する学生について、コース会議等において当該学生の情報を共有し、きめ細やかな指導を行うと共に授業・演習・実習の運営が円滑に進むよう努めた。 ＜心理学科＞ 1）毎週、学科における運営会議を実施し、授業の改善点や学生の学習状況に関して意見を交換し、問題点の改善を図るべく情報の共有や議論を行っている。 2）不定期であるが、「心理学談話会」という学科内の研究会を実施し、教員相互に研究の進捗や新しい研究成果について発表し、議論する機会を設けている。これにより各教員の専門分野を横断した知識の共有をはかり、各教員の研究力向上に努めている。 [2023 年度 FD 活動] 1. ラジオ番組「こちら愛大　～アイダイ・ど・文学部の時間～」　(FM 豊橋)の収録・放送 2. 教育に関する文学部教員による懇談会等の実施 3. 人文社会学と現代に関する研究会の実施 4. その他、FD 活動の上で必要なことが生じれば、随時対応する。

学部等名	FD 活動
地域政策学部	[2022 年度 FD 活動総括] 2022 年度の地域政策学部の学部 FD 活動は、(1) 対面授業への切り替えとオンライン授業の一層の質の向上、(2) 本学部の特色を踏まえた教育成果の振り返り、(3) 教学や学生生活にかかる取り組みとの連携という 3 本柱の年度目標を掲げて実施した。コロナ禍が収束する中で概ね遂行することができた。特に、(1) については、少人数授業や演習科目群を中心に対面授業に切り替え実施し、安全に取り組むことができた。(2) については、今年度カリキュラムから学生地域貢献団体やその活動に参加する学生が地域の実情を踏まえながら関係者との活動を行えるようになることをねらいとする「地域貢献論特殊講義」を開講し、学生地域貢献団体の学生を中心に関係者との交流を含めた学習の機会を設けた。さらに、各種委員会を設置して、入学前教育、初年次教育、地域貢献活動などの在り方を改めて議論した。(3) については、昨年度に引き続き教授会にて学内の取り組みを把握すると共に，各担当者各位と意見を交えた。 これらの年度目標は、本学部の恒常的に行う FD 活動内容であることから、引き続き 2023 年度も教員の資質向上を目指しながら継続して取り組みたい。 [2023 年度 FD 活動] ＜年度目標＞ (1)今年度から新型コロナウイルス感染症の位置づけが 5 類に移行し、学内活動制限指針レベルが 0 になったことを受け、全面的に対面授業に切り替えて実施する。ただし、いまだに新型コロナウイルスの感染を懸念する学生やその家族に対しては十分に配慮を行う。 (2)昨年度と同様に本学部の特色をふまえた教育、および、その教育成果を振り返り、課題を探る。 (3)教学や学生生活を支える学内のさまざまな取組みを知り、連携する。 ＜活動方法＞ (1)について 学内活動制限指針レベルが 0 になったことを受け、新型コロナウイルスの感染を懸念する学生を十分に考慮にいれつつ対面授業を実施する。 (2)については、昨年度と同様、 ①大学間連携共通教育推進事業を進める中で入学前教育（1 回／年、教授会で議論）、初年次教育（12－1 月、および、2－3 月に 2 回、委員会で議論）の現状や在り方を教員間で適宜議論し、改善を図る。 ②学生地域貢献事業への支援等を通して見出された地域貢献活動の教育的意義についての意見交換を行う（適宜）。 ③アクティブラーニングやＰＢＬの取組み成果や課題について教員間の意見・情報交換を行う（適宜）。 ④キャリア形成支援に取り組む中で、地域に求められる人材養成のあり方を話し合う（適宜）。 ⑤学生地域貢献団体やその活動に参加を希望する学生に対し、「地域貢献論特殊講義」を通じて、地域の実情を踏まえながら関係者との活動を行える学習機会を提供する（春学期水曜 5 限、15 回授業）。 (3)について 昨年度と同様、教職課程センター、学習教育支援センター、図書館、学生相談室、キャリア支援課、学生課、保健室などの担当者各位を教授会に招いて意見交換する（適宜）。

学部等名	FD 活動
短期大学部	［2022 年度 FD 活動総括］ ・初年次教育のために、全員必修の「基礎演習」の時間に図書館ガイダンスと語学教育研究室（ランゲージカフェ）のガイダンス、本学の建学の理念と歴史を学ぶために東亜同文書院記念センター見学を実施した。 ・学生による授業評価アンケートは、履修者数が少ない科目を例外として、原則的に短期大学部の全科目について WEB システムを使って実施した。春学期は実施科目数で 39 設問⑴～⑹の回答平均 4.39、秋学期は実施科目数 38 で設問⑴～⑺の回答平均 4.20 と、全学的に見ても高い数値となった。 ・カリキュラム改革のために、現状の分析と改善の方法を教授会で複数回検討した。 ・カリキュラムや学生生活の改善を検討するために、1 年生は 7 月 6 日の全体ガイダンスで、2 年生は 7 月 7 日の卒業研究各クラスで「短期大学部学生アンケート」を実施した。その結果を集計し、9 月 15 日の教授会にて情報共有した。 ・豊橋学生相談室の担当者を教授会に招いて、統計データに基づき学生の悩み・相談の現状やその対応について話を聞くことはできなかった。 ・2021 年度に実施した学生の実態調査（アルバイト編）のデータについて、分析し学生の実態を理解、共有することはできなかった。 ・教授会の場において、ゼミの教育活動事例報告は実施できなかった。 ［2023 年度 FD 活動］ ・引き続き初年次教育のために、全員必修の「基礎演習」の時間に図書館ガイダンスと語学教育研究室（ランゲージカフェ）のガイダンス、本学の建学の理念と歴史を学ぶために東亜同文書院記念センター見学などを実施し、実施日時・参加者名・活動内容等を記録して事務局に報告する。 ・学生による授業評価アンケートは、履修者数が少ない科目を例外として、春学期・秋学期とも原則的に短期大学部の全科目について実施する。 ・教育環境や学生生活の改善・向上を図るため、豊橋学生相談室の担当者を教授会に招いて、学生の悩み・相談の現状やその対応について意見交換する。 ・カリキュラム改革のために、現状の分析と改善の方法を引き続き検討する。 ・ゼミの活動について、教授会の場において教育活動事例の報告を実施する。